

大学番号：公010

注3

[平成24年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

共同設置

秋田大学大学院 工学資源学研究科 共同ライフサイクルデザイン工学専攻

秋田県立大学大学院 システム科学技術研究科 共同ライフサイクルデザイン工学専攻

注2

【共同設置】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 秋田大学
公立大学法人 秋田県立大学
平成24年5月1日現在

秋田大学：作成担当者

担当部局（課）名 大学院工学資源学研究科

職名・氏名 ショサ ソウムタントウ アソウアツシ
主査（総務担当） 麻生厚司

電話番号 018-889-2305

（夜間） 018-889-2305

F A X 018-889-2300

e-mail koso@jimu.akita-u.ac.jp

秋田県立大学：作成担当者

教育本部

職名・氏名 ホンジョウ キョウム タグチカズヤ
本庄キャンパス教務チーム 田口和哉

電話番号 0184-27-2700

F A X 0184-27-2180

e-mail taguchi@akita-pu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は、基本計画書又は設置計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成24年3月12日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

項 目	ページ
1 調査対象大学等の概要等	1
2 授業科目の概要	5
3 施設・設備の整備状況, 経費	7
4 既設大学等の状況	9
5 教員組織の状況	11
6 留意事項に対する履行状況	17
7 その他全般的事項	18

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者, 大学名

国立大学法人 秋田大学 : 秋田大学大学院

公立大学法人 秋田県立大学 : 秋田県立大学大学院

(2) 大学の位置

秋田大学

〒010-8502 : 秋田県秋田市手形学園町1-1

秋田県立大学

〒010-0195 : 秋田県秋田市下新城野字街道端西241-438

- (注) ・ 対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・ 対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(3) 管理運営組織

大学名	職名	設置時	変更状況	備考
	学長	(ヨシムラ ノボル) 吉村 昇 (平成20年4月)		
	研究科長	(オガワ ノブアキ) 小川 信明 (平成23年4月)		
	専攻長	(ナカムラ マサヒデ) 中村 雅英 (平成24年4月)		
秋田県立大学	理事長 (該当しない場合は不要)	(コマ アツシ) 小間 篤 平成23年4月		
	学長	(コマ アツシ) 小間 篤 平成23年4月		
	研究科長	(コバヤシ ジュン) 小林 淳 平成24年4月		
	専攻長			平成24年6月1日付けで就任予定

- (注) ・ 「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 平成21年度に報告済の内容 → (21)
 平成24年度に報告する内容 → (24)
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・ 大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・ 国立大学間の共同設置のうち、「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(4) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成22年度開設の博士後期課程の専攻の場合(平成24年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(4) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
秋田大学大学院工学資源学研究科 共同ライフサイクルデザイン工学専攻 修士(工学)	2年	12人	24人	基礎となる学部等 工学資源学部
秋田県立大学大学院システム科学技術研究科 共同ライフサイクルデザイン工学専攻 修士(工学)	2	5	10	基礎となる学部等 システム科学技術学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(4) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

大学名	報告年度 区分	平成24年度		平成25年度		平均入学定員 超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
秋田大学	A 入学定員	12人 (若干名) [若干名]	人 () []	人 () []	人 () []	1.00倍	
	志願者数	() [-]	() []	() []	() []		
	受験者数	() [-]	() []	() []	() []		
	合格者数	() [-]	() []	() []	() []		
	B 入学者数	() [-]	() []	() []	() []		
	入学定員超過率 B/A	1.00					
秋田県立大学	A 入学定員	5人 (若干名) [若干名]	人 () []	人 () []	人 () []	0.80倍	
	志願者数	() [-]	() []	() []	() []		
	受験者数	() [-]	() []	() []	() []		
	合格者数	() [-]	() []	() []	() []		
	B 入学者数	() [-]	() []	() []	() []		
	入学定員超過率 B/A	0.8					

- (注) ・ 数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 「社会人」については、貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(4) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

大学名	報告年度 学 年	平成24年度		平成25年度		備 考	
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
秋田大学	1年次	[-] 12	[]	[]	[]		
	2年次	/		[]	[]		
	計	[-] 12	[]	[]	[]		
秋田県立大学	1年次	[-] 5	[]	[]	[]	1名は建築環境システム学専攻からの転専攻により1年次に在籍	
	2年次	/		[]	[]		
	計	[-] 5	[]	[]	[]		

- (注) ・ 数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

大学名	区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
				退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
秋田大学	平成24年度 入学者	12人	0人	平成24年度	人	人		0%
				平成25年度	人	人		
	平成25年度 入学者	人	0人	平成25年度	人	人		%
					人	人		
	合計	12人	0人					0%
秋田県立大学	平成24年度 入学者	5人	0人	平成24年度	人	人		0%
				平成25年度	人	人		
	平成25年度 入学者	人	0人	平成25年度	人	人		%
					人	人		
	合計	5人	0人					0%

(注)・数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成24年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

＜共同ライフサイクルデザイン工学専攻＞

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年度	構成大学	単位数					専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎・倫理関係科目	リサイクルプロセス設計特論	1後	秋田大学		2										
	プレゼンテーション技法	1前	秋田大学		1										
	インターンシップⅠ	随時	秋田大学		1										
	インターンシップⅡ	随時	秋田大学		2										
	技術者倫理特論Ⅰ	1前	秋田大学		2										
	技術者倫理特論Ⅱ	1後	秋田大学		2										
	特別講義(工学資源学特論)	1後	秋田大学		1										
	特別講義(マーケティング論)	1前	秋田大学		1										
	特別講義(ベンチャー起業論)	1後	秋田大学		1										
	特別講義(国際関係論)	1前	秋田大学		1										
	特別講義(資源・工業経済論)	1通	秋田大学		1										
	特別講義(リスクマネジメント)	1前	秋田大学		1										
	プレゼンテーション	1後	秋田県立大学		2										
	実践英語A	1前	秋田県立大学		2										
	英語プレゼンテーションA	1後	秋田県立大学		2										
	風土・文化構造論	1前	秋田県立大学		2										
	科学技術と倫理	1前	秋田県立大学		2										
	感性情報と環境の心理	1前	秋田県立大学		2										
	地域社会と家族	1後	秋田県立大学		2										
	生体情報と運動の生理	1前	秋田県立大学		2										
フィールドワーク(実践科目)	1・2通	秋田県立大学		2											
知的所有権論A	1前	秋田県立大学		2											
標準化論A	1後	秋田県立大学		2											
信頼性工学A	1前	秋田県立大学		2											
失敗工学A	1後	秋田県立大学		2											
地域活性化システム特論	1後・2後	秋田県立大学		2											
専門科目	ライフサイクルプランニング基礎	1前	秋田県立大学	2				1							
	ライフサイクルデザイン工学基礎	1前	秋田大学	2				1	4						採用計画に基づく 専任教員の配置(採用)(24) 担当 三島 望(教授)
	ライフサイクルデザイン製品技術論	1後	秋田県立大学		2										
	環境型生産管理論	1後	秋田県立大学		2										
	ライフサイクルアセスメント	1前	秋田県立大学		2				1						
	フォールト・トレランス工学	1後	秋田大学		2			1							
	ライフサイクルデザイン工学特論	2前	秋田大学		2			4	1						採用計画に基づく 専任教員の配置(学内異動)(24) 担当 佐藤正志(准教授)
	ライフサイクルデザイン工学特別講義Ⅰ	1後	秋田大学		1										
	ライフサイクルデザイン工学特別講義Ⅱ	2前	秋田大学		1										
	熱流体エネルギー移動・変換工学	1後	秋田大学		2			1							
	電磁エネルギー変換工学	1前	秋田大学		2			1							
	電子デバイス工学	1後	秋田大学		2										
	マイクロ加工工学特論	1前	秋田大学		2				1						
	電子制御機械工学特論	1後	秋田大学		2										
	次世代自動車工学	1後	秋田県立大学		2			1							
	音環境工学	1後	秋田県立大学		2										
	環境電磁工学	1前	秋田県立大学		2				1						
	資源システム設計学特論	1後	秋田大学		2										
	水処理工学特論	1前	秋田大学		2										
	モレキュラー・エンジニアリング	1後	秋田大学		2										
	先端機能材料学特論	1後	秋田大学		2				1						
	応用物性学	1前	秋田大学		2				1						
	都市環境論	1後	秋田県立大学		2					1					
	環境・エネルギー工学	1前	秋田県立大学		2										
	地盤工学特論	1後	秋田大学		2										
	地域産業論	1後	秋田大学		2										
	地域産業再構築論	1前	秋田県立大学		2			1							
	ライフサイクルデザイン工学セミナー	1通	秋田県立大学			2			2	3					
				秋田大学					4	3					
	ライフサイクルデザイン工学課題研究(修士論文)	1・2通	秋田県立大学		8				2	3					
			秋田大学					4	3						

- (注) ・ 届出書様式第2号(その2の2)又は「教育課程等の概要」に準じて作成してください。
 ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成23年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・ 「配当年度」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、記入してください。

(2) 授業科目数

大学名	届出時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
秋田大学	科目								
	4	51	0	55	4	51	0	55	
	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	
秋田県立大学	科目								
	4	51	0	55	4	51	0	55	
	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年度に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

	番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
秋田大学	1	該当なし					
	2						
	3						
秋田県立大学	1	該当なし					
	2						
	3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

	番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
秋田大学	1	該当なし					
	2						
	3						
秋田県立大学	1	該当なし					
	2						
	3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

秋田大学：該当なし

秋田県立大学：該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(秋田大学)

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

(秋田県立大学)

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(秋田大学)

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	247,484 m ²	0 m ²	0 m ²	247,484 m ²			
	運 動 場 用 地	76,146 m ²	0 m ²	0 m ²	76,146 m ²			
	小 計	323,630 m ²	0 m ²	0 m ²	323,630 m ²			
	そ の 他	95,549 m ²	0 m ²	0 m ²	95,549 m ²			
	合 計	419,179 m ²	0 m ²	0 m ²	419,179 m ²			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	126,476 m ² (126,476 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	126,476 m ² (126,476 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	99 室	130 室	543 室	14 室 (補助職員 0 人)	5 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	工学資源学研究科共同ライブラリー* 工学専攻		8 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]					[うち外国書]
	冊	種	点	点	点			
	工学資源学研究科 共同ライブラリー* 工学専攻	410,891 [110,945] (410,891 [110,945])	9,077 [2,571] (9,077 [2,571])	4,294 [3,018] (4,294 [3,018])	477 (477)	3,022 (3,022)	— (—)	
計	410,891 [110,945] (410,891 [110,945])	9,077 [2,571] (9,077 [2,571])	4,294 [3,018] (4,294 [3,018])	477 (477)	3,022 (3,022)	— (—)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	6,337 m ²		407		582,537			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	7,908 m ²		陸上競技場, 野球場, 多目的運動場, テニスコート, プール					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円
	共 同 研 究 費 等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			—					

(秋田県立大学)

区 分		内 容				備 考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	本荘キャンパス 国際交流宿舎(アパート)の土地342㎡を加算したため(H24.4.5 所有権移転)(24)		
	校舎敷地	372,064 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	372,064 ㎡			
	運動場用地	300,119 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	300,119 ㎡			
	小 計	672,183 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	672,183 ㎡			
	そ の 他	2,146,914 2,146,572 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,146,914 2,146,572 ㎡			
	合 計	2,819,097 2,818,755 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,819,097 2,818,755 ㎡			
(2) 校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体		
		91,649㎡	0㎡	㎡	91,649㎡			
		(㎡)	(㎡)	(㎡)	(㎡)			
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	32室	17室	224室	9室 (補助職員 2人)	2室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	システム科学技術研究科共同ライフサイクルデザイン工学専攻			5 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル				
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点		
	システム科学技術研究科共同ライフサイクルデザイン工学専攻	93,000 [20,300] (92,300 [20,000]) (90,800 [19,700])	2,700 [2,500] 3,700 [2,800] 2,700 [2,500]	2,400 [2,400] 2,400 [2,400]	1,750 (1,700)	1,900 (1,900)	— (—)	
計	93,000 [20,300] (92,300 [20,000]) (90,800 [19,700])	2,700 [2,500] 3,700 [2,800] 2,700 [2,500]	2,400 [2,400] 2,400 [2,400]	1,750 (1,700)	1,900 (1,900)	— (—)		
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			
	4,879㎡		555		280,278			
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	4,199㎡		トレーニングルーム テニスコート		野球場 陸上競技場			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	1,200千円	1,200千円	図書購入費	22,000千円	22,000千円	22,000千円
	共同研究費等	100,900千円 96,500千円	96,500千円	設備購入費	13,655千円	10,263千円 10,442千円	11,067千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	848千円	536千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費交付金(秋田県)、受託研究事業収入等					

- (注) ・ 別記様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(24)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 構成大学毎に記入してください。
 - ・ 国立大学間の共同設置のうち、「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

4 既設大学等の状況

大学の名称	秋 田 大 学							備 考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収容員	学位又は称号	定員超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次人	人		倍			
教育文化学部								秋田市手形学園町1番1号	
学校教育課程	4	100	—	400	学士(学校教育)	1.04	平成10		
地域科学課程	4	65	—	260	学士(地域科学)	1.02	平成10		
国際言語文化課程	4	65	—	260	学士(国際言語文化)	1.04	平成10		
人間環境課程	4	60	—	240	学士(人間環境)	1.05	平成10		
医学部								秋田市本道一丁目1の1	
医学科	6	120	2年次 5	692	学士(医学)	1.00	昭和45		
保健学科	4	106	3年次 14	452	学士(保健学) 学士(看護学)	1.00	平成14		
工学資源学部								秋田市手形学園町1番1号	
地球資源学科	4	60	—	240	学士(資源学) 学士(工学)	1.02	平成10		
環境応用化学科	4	55	—	220	学士(工学)	1.10	平成20		
生命化学科	4	32	—	120	学士(工学) 学士(理学)	1.03	平成20		
材料工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.08	平成10		
情報工学科	4	50	—	200	学士(工学)	1.14	平成10		
機械工学科	4	77	—	308	学士(工学)	1.12	平成10		
電気電子工学科	4	75	—	300	学士(工学)	1.08	平成10		
土木環境工学科	4	51	—	204	学士(工学)	1.06	平成10		
各学科共通			3年次 12	34					
大学院教育学研究科 (修士課程)								秋田市手形学園町1番1号	
学校教育専攻	2	13	—	26	修士(教育学)	1.07	平成元		
教科教育専攻	2	31	—	62	修士(教育学)	0.66	平成元		
大学院医学系研究科 (修士課程)								秋田市本道一丁目1の1	
医科学専攻	2	5	—	10	修士(医科学)	0.50	平成19		
(博士前期課程)									
保健学専攻	2	12	—	24	修士(看護学) 修士(リハビリテーション科学)	1.04	平成19		
(博士後期課程)									
保健学専攻	3	3	—	9	博士(保健学)	1.44	平成21		
(博士課程)									
医学専攻	4	30	—	120	博士(医学)	1.02	平成19		
大学院工学資源学研究科 (博士前期課程)								秋田市手形学園町1番1号	
地球資源学専攻	2	17	—	35	修士(工学) 修士(資源学)	1.23	平成14		
環境応用化学専攻	2	20	—	20	修士(工学)	0.90	平成24		平成24年より学募集停止
環境物質工学専攻	—	—	—	—	修士(工学)		平成14		
生命科学専攻	2	12	—	12	修士(理学)	0.83	平成24		
材料工学専攻	2	23	—	41	修士(工学)	0.93	平成14		
情報工学専攻	2	16	—	32	修士(工学)	0.87	平成14		
機械工学専攻	2	26	—	50	修士(工学)	1.10	平成14		
電気電子工学専攻	2	30	—	56	修士(工学)	1.33	平成14		
土木環境工学専攻	2	11	—	23	修士(工学)	0.97	平成14		
共同ライフサイクルデザイン	2	12	—	12	修士(工学)	1.00	平成24		
大学院工学資源学研究科 (博士後期課程)								秋田市手形学園町1番1号	
資源学専攻	3	4	—	12	博士(工学) 博士(資源学)	0.66	平成14		
機能物質工学専攻	3	4	—	12	博士(工学)	0.50	平成14		
生産・建設工学専攻	3	4	—	12	博士(工学)	0.75	平成14		
電気電子情報システム工	3	4	—	12	博士(工学)	0.66	平成14		

大学の名称	秋 田 県 立 大 学						備 考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容量	学位又は称号	定員超過率	開 設 年 度	所 在 地
【システム科学技術学部】			年次人	人		倍		
機械知能システム学科	4	80		320	学士(工学)	1.04	平成11年度	秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84番4
電子情報システム学科	4	80		320	学士(工学)	1.06	平成11年度	
建築環境システム学科	4	40		160	学士(工学)	1.01	平成11年度	
経営システム工学科	4	40		160	学士(工学)	1.09	平成11年度	
						1.05		
【生物資源科学部】								
応用生物科学科	4	40		160	学士(生物資源科学)	1.04	平成11年度	秋田県秋田市下新城中野字街道端西241番438
生物生産科学科	4	40		160	学士(生物資源科学)	1.05	平成11年度	
生物環境科学科	4	30		120	学士(生物資源科学)	1.07	平成11年度	
アグリビジネス学科	4	40		160	学士(生物資源科学)	1.10	平成18年度	秋田県南秋田郡大湯村字南2丁目2番地
【システム科学技術研究科】 (博士前期課程)								
機械知能システム学専攻	2	17		34	修士(工学)	1.10	平成14年度	秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84番4
電子情報システム学専攻	2	17		34	修士(工学)	0.76	平成14年度	
建築環境システム学専攻	2	6		12	修士(工学)	0.83	平成14年度	
経営システム工学専攻	2	5		10	修士(工学)	1.47	平成14年度	
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	2	5		10	修士(工学)	0.80	平成24年度	
(博士後期課程)								
総合システム科学専攻	3	8		24	修士(工学)	0.54	平成14年度	
【生物資源科学研究科】 (博士前期課程)								
生物資源科学専攻	2	28		56	修士(生物資源科学)	0.69	平成23年度	秋田県秋田市下新城中野字街道端西241番438
(博士後期課程)								
生物資源科学専攻	3	5		15	博士(生物資源科学)	0.80	平成23年度	

秋田大学との入学定員の合計は17名、収容定員も17名。

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科(A C対象学部等を含む)について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)
- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・ 構成大学毎に記入してください。

5 教員組織の状況

<工学資源学研究所 共同ライサイクルデザイン工学専攻>

(1) 担当教員表
(秋田大学)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	中村 雅英	平成24年4月	熱流体エネルギー移動・変換工学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	専	教授	中村 雅英	平成24年4月	熱流体エネルギー移動・変換工学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	
専	教授	玉本 英夫	平成24年4月	フォールトトレランス工学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	専	教授	玉本 英夫	平成24年4月	フォールトトレランス工学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	
専	教授	田島 克文	平成24年4月	電磁エネルギー変換工学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	専	教授	田島 克文	平成24年4月	電磁エネルギー変換工学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	
専	准教授	魯 小葉	平成24年4月	先端機能材料科学特論 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	専	准教授	魯 小葉	平成24年4月	先端機能材料科学特論 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	
専	准教授	山口 邦彦	平成24年4月	応用物性学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	専	准教授	山口 邦彦	平成24年4月	応用物性学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	
専	准教授	高橋 護	平成24年4月	マイクロ加工学特論 ライフサイクルデザイン工学セミナー	専	准教授	高橋 護	平成24年4月	マイクロ加工学特論 ライフサイクルデザイン工学セミナー	
専	教授	(採用選考中)	平成24年4月	ライフサイクルデザイン工学特論 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	専	教授	三島 望	平成24年4月	ライフサイクルデザイン工学基礎 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	
専	准教授	(採用選考中)	平成24年4月	ライフサイクルデザイン工学基礎 ライフサイクルデザイン工学セミナー	専	准教授	佐藤 正志	平成24年4月	ライフサイクルデザイン工学特論 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学課題研究 (研究指導)	
兼任	教授	堀口 誠二	平成24年4月	電子デバイス工学	兼任	教授	堀口 誠二	平成24年4月	電子デバイス工学	
兼任	教授	長縄 明大	平成24年4月	電子制御機械工学特論	兼任	教授	長縄 明大	平成24年4月	電子制御機械工学特論	
兼任	教授	佐藤 博	平成24年4月	資源システム設計学特論	兼任	教授	佐藤 博	平成24年4月	資源システム設計学特論	
兼任	教授	大友 崇穂	平成24年4月	水処理工学特論	兼任	教授	大友 崇穂	平成24年4月	水処理工学特論	
兼任	教授	中田 真一	平成24年4月	モレキュラー・エンジニアリング	兼任	教授	中田 真一	平成24年4月	モレキュラー・エンジニアリング	
兼任	教授	及川 洋	平成24年4月	地盤工学特論	兼任	教授	及川 洋	平成24年4月	地盤工学特論	
兼任	教授	銭谷 秋生	平成24年4月	技術者倫理特論Ⅰ 技術者倫理特論Ⅱ	兼任	教授	銭谷 秋生	平成24年4月	技術者倫理特論Ⅰ 技術者倫理特論Ⅱ	
兼任	准教授	細井 明	平成24年4月	リサイクルプロセス設計特論	兼任	准教授	細井 明	平成24年4月	リサイクルプロセス設計特論	
兼任		毎年教員変更	平成24年4月	特別講義(工学資源学特論)※	兼任		毎年教員変更	平成24年4月	特別講義(工学資源学特論)※	
兼任	特任准教授	佐藤 博	平成24年4月	特別講義(資源・工業経済論)※	兼任	特任准教授	佐藤 博	平成24年4月	特別講義(資源・工業経済論)※	
兼任	講師	OLAGBOYEGA KOLAWOLE WAZIRI	平成24年4月	プレゼンテーション技法	兼任	講師	OLAGBOYEGA KOLAWOLE WAZIRI	平成24年4月	プレゼンテーション技法	
兼任	講師	長谷部 光重	平成24年4月	特別講義(マーケティング論)	兼任	講師	長谷部 光重	平成24年4月	特別講義(マーケティング論)	
兼任	講師	棚田 晃夫 (高)	平成24年4月	特別講義(ベンチャー起業論)※	兼任	講師	棚田 晃夫 (高)	平成24年4月	特別講義(ベンチャー起業論)※	
兼任	講師	佐藤 善友	平成24年4月	特別講義(ベンチャー起業論)※	兼任	講師	佐藤 善友	平成24年4月	特別講義(ベンチャー起業論)※	
兼任	講師	細井 義孝	平成24年4月	特別講義(国際関係論)	兼任	講師	細井 義孝	平成24年4月	特別講義(国際関係論)	
兼任	講師	桜井 若葉	平成24年4月	特別講義(資源・工業経済論)※	兼任	講師	桜井 若葉	平成24年4月	特別講義(資源・工業経済論)※	

兼任	講師	永森 茂	平成24年4月	特別講義(リスクマネジメント)	兼任	講師	永森 茂	平成24年4月	特別講義(リスクマネジメント)	
兼任	講師	(採用選考中)	平成24年4月	ライフサイクルデザイン工学特別講義Ⅰ	兼任	講師	対馬 雅己	平成24年4月	ライフサイクルデザイン工学特別講義Ⅰ	
兼任	講師	(採用選考中)	平成24年4月	ライフサイクルデザイン工学特別講義Ⅱ	兼任	講師	(採用選考中)	平成25年4月	ライフサイクルデザイン工学特別講義Ⅱ	
兼任	講師	(採用選考中)	平成24年4月	地域産業論※	兼任	講師	掛札 彰久	平成24年4月	地域産業論※	
					兼任	講師	佐藤 善友	平成24年4月	地域産業論※	
					兼任	講師	松淵 秀和	平成24年4月	地域産業論※	
					兼任	講師	杉館 俊彦	平成24年4月	地域産業論※	
					兼任	講師	眞田 慎	平成24年4月	地域産業論※	
					兼任	講師	榎田 竜路	平成24年4月	地域産業論※	
					兼任	講師	鎌田 悟	平成24年4月	地域産業論※	
					兼任	講師	赤上 陽一	平成24年4月	地域産業論※	
					兼任	講師	佐藤 幸生	平成24年4月	地域産業論※	
		(企業等にて実地研修)	平成24年4月	インターンシップⅠ			(企業等にて実地研修)	平成24年4月	インターンシップⅠ	
		(企業等にて実地研修)	平成24年4月	インターンシップⅡ			(企業等にて実地研修)	平成24年4月	インターンシップⅡ	
		以下余白								

…… [上記の様式と同様にして記載。]

(注)・別記様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る研究科に所属しない教員であって、全学共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、
 <〇〇研究科 〇〇専攻>を「共通」とし、表を分けて作成してください。

・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。

・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。

・年齢は、「**認可時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成24年5月1日現在の満年齢を記入してください。

・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

・国立大学間の共同設置のうち、「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

5 教員組織の状況

<システム科学技術研究科 共同ライフサイクルデザイン工学専攻>

(1) 担当教員表
(秋田県立大学)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	ミロ 御室 哲志	平成24年4月	次世代自動車工学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	専任	教授	ミロ 御室 哲志	平成24年4月	次世代自動車工学 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	
専任	教授	ミナ 三品 勉	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎 地域産業再構築論 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	専任	教授	ミナ 三品 勉	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎 地域産業再構築論 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	
専任	准教授	トバナ 戸花 照雄	平成24年4月	環境電磁工学 標準化論A ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	専任	准教授	トバナ 戸花 照雄	平成24年4月	環境電磁工学 標準化論A ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	
専任	准教授	アノ 浅野 耕一	平成24年4月	都市環境論 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	専任	准教授	アノ 浅野 耕一	平成24年4月	都市環境論 ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	
専任	准教授	リョウ 梁 瑞録	平成24年4月	ライフサイクルアセスメント ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	専任	准教授	リョウ 梁 瑞録	平成24年4月	ライフサイクルアセスメント ライフサイクルデザイン工学セミナー ライフサイクルデザイン工学研究課題 (修士論文)	
兼任	教授	ミスノ 水野 衛	平成24年4月	プレゼンテーション 信頼性工学A 失敗工学A	兼任	教授	ミスノ 水野 衛	平成24年4月	プレゼンテーション 信頼性工学A 失敗工学A	
兼任	教授	ヒノ 能勢 敏明	平成24年4月	プレゼンテーション	兼任	教授	ヒノ 能勢 敏明	平成24年4月	プレゼンテーション	
兼任	教授	ヒヤマ 山田 晋	平成24年4月	実践英語A	兼任	教授	ヒヤマ 山田 晋	平成24年4月	実践英語A	
兼任	教授	カハシ 高橋 秀晴	平成24年4月	風土・文化構造論	兼任	教授	カハシ 高橋 秀晴	平成24年4月	風土・文化構造論	
兼任	教授	コイケ 小池 孝範	平成24年4月	科学技術と倫理	兼任	教授	コイケ 小池 孝範	平成24年4月	科学技術と倫理	
兼任	教授	ワタベ 渡部 諭	平成24年4月	感性情報と環境の心理	兼任	教授	ワタベ 渡部 諭	平成24年4月	感性情報と環境の心理	
兼任	教授	オサリ 小澤 一文	平成24年4月	フィールドワーク (実践科目)	兼任	教授	オサリ 小澤 一文	平成24年4月	フィールドワーク (実践科目)	
兼任	教授	マモト 松本 真一	平成24年4月	知的所有権論A	兼任	教授	マモト 松本 真一	平成24年4月	知的所有権論A	
兼任	教授	イタ 磯田 陽次	平成24年4月	知的所有権論A	兼任	教授	イタ 磯田 陽次	平成24年4月	知的所有権論A	
兼任	教授	キョウ 邱 建輝	平成24年4月	知的所有権論A	兼任	教授	キョウ 邱 建輝	平成24年4月	知的所有権論A	
兼任	教授	ヤマダ 山田 寛次	平成24年4月	標準化論A	兼任	教授	ヤマダ 山田 寛次	平成24年4月	標準化論A	
兼任	教授	コノ 兵 勇波	平成24年4月	標準化論A	兼任	教授	コノ 兵 勇波	平成24年4月	標準化論A	
兼任	教授	サトリ 佐藤 宗純	平成24年4月	信頼性工学A	兼任	教授	サトリ 佐藤 宗純	平成24年4月	信頼性工学A	
兼任	教授	コバヤシ 小林 淳	平成24年4月	信頼性工学A	兼任	教授	コバヤシ 小林 淳	平成24年4月	信頼性工学A	
兼任	教授	アヤマ 青山 隆	平成24年4月	失敗工学A	兼任	教授	アヤマ 青山 隆	平成24年4月	失敗工学A	
兼任	教授	ニシダ 西田 哲也	平成24年4月	失敗工学A	兼任	教授	ニシダ 西田 哲也	平成24年4月	失敗工学A	
兼任	教授	ホシノ 小笠原 正	平成24年4月	知的所有権論A 地域活性化システム特論	兼任	教授	ホシノ 小笠原 正	平成24年4月	知的所有権論A 地域活性化システム特論	
兼任	教授	タニグチ 谷口 吉光	平成24年4月	地域活性化システム特論	兼任	教授	タニグチ 谷口 吉光	平成24年4月	地域活性化システム特論	
兼任	教授	タニグチ 谷内 宏行	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎 環境型生産管理論	兼任	教授	タニグチ 谷内 宏行	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎 環境型生産管理論	
兼任	教授	ソウマ 相馬 隆雄	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎	兼任	教授	ソウマ 相馬 隆雄	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎	
兼任	准教授	クアドラ カルロス	平成24年4月	プレゼンテーション	兼任	准教授	クアドラ カルロス	平成24年4月	プレゼンテーション	
兼任	准教授	スティーブン シュカート	平成24年4月	英語プレゼンテーションA	兼任	准教授	スティーブン シュカート	平成24年4月	英語プレゼンテーションA	
兼任	准教授	コマツタ 小松田 儀貞	平成24年4月	地域社会と家族	兼任	准教授	コマツタ 小松田 儀貞	平成24年4月	地域社会と家族	
兼任	准教授	ウチヤマ 内山 応信	平成24年4月	生体情報と運動の生理	兼任	准教授	ウチヤマ 内山 応信	平成24年4月	生体情報と運動の生理	
兼任	准教授	キタ 菊地 英治	平成24年4月	知的所有権論A ライフサイクルデザイン製品技術論 ライフサイクルプランニング基礎	兼任	准教授	キタ 菊地 英治	平成24年4月	知的所有権論A ライフサイクルデザイン製品技術論 ライフサイクルプランニング基礎	
兼任	准教授	ハセガワ 長谷川 兼一	平成24年4月	標準化論A 都市環境論	兼任	准教授	ハセガワ 長谷川 兼一	平成24年4月	標準化論A 都市環境論	
兼任	准教授	イノカキ 板垣 直行	平成24年4月	信頼性工学A	兼任	准教授	イノカキ 板垣 直行	平成24年4月	信頼性工学A	
兼任	准教授	タカネ 高根 昭一	平成24年4月	音環境工学	兼任	准教授	タカネ 高根 昭一	平成24年4月	音環境工学	
兼任	准教授	シマダ 嶋崎 真仁	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎	兼任	准教授	シマダ 嶋崎 真仁	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎	
兼任	准教授	カネツ 金澤 伸浩	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎	兼任	准教授	カネツ 金澤 伸浩	平成24年4月	ライフサイクルプランニング基礎	

兼任	准教授	クマガイ セイジ 熊谷 誠治	平成24年4月	環境・エネルギー工学	兼任	准教授	クマガイ セイジ 熊谷 誠治	平成24年4月	環境・エネルギー工学	
----	-----	-------------------	---------	------------	----	-----	-------------------	---------	------------	--

(△△大学)

…… [上記の様式と同様にして記載。]

(注) ・別記様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る研究科に所属しない教員であって、全学共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、
(○○研究科 ○○専攻)を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「**認可時の計画**」には**当該学部等の就任時における満年齢**を、「**変更状況**」には**平成24年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- ・ 国立大学間の共同設置のうち、「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(2) 専任教員数

	届出時の計画				変更状況				備考
	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
秋田大学	6 (7)	2 (1)	8 (8)	0 (0)	7 [+1]	1 [Δ1]	8 [±0]	0 [0]	
秋田県立大学	2 (2)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	2 [±0]	3 [±0]	5 [±0]	0 [±0]	

(注) ・ 様式は、学部・学科の場合は上段、研究科の場合は下段を使用してください。

(注) ・ 「届出の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成24年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

(3) 専任教員辞任等の理由

	番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
秋田大学	1		該当なし	
	2			
	3			
秋田県立大学	1		該当なし	
	2			
	3			

- (注) ・ 専任教員辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 国立大学間の共同設置のうち、「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

秋田大学	: 該当なし
秋田県立大学	: 該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
 ・ 国立大学間の共同設置のうち、「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (24年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年△△月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年□□月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<工学資源学研究科 共同ライフサイクルデザイン工学専攻>

<システム科学技術学研究科 共同ライフサイクルデザイン工学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

(秋田大学)

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

(秋田県立大学)

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

…… [上記の様式と同様にして記載。]

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
 - ・ 構成大学毎に記入してください。
 - ・ 国立大学間の共同設置のうち、「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

(秋田大学)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

工学資源学研究科教育改善委員会

《関係規程等》

秋田大学大学院工学資源学研究科教育改善委員会規程

(趣旨)

第1条 秋田大学大学院工学資源学研究科及び工学資源学部における教育及び教員の教育に関する資質の向上に関する事項並びに工学資源学研究科評価委員会及び企画運営会議の付託事項を検討・実施するため、工学資源学研究科に教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置き、委員会に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 学生及び教員による授業評価の実施等に関すること。
- 二 J A B E 認証の受審・更新の実施等に関すること。
- 三 教育に関する外部評価の実施に関すること。
- 四 教育改善に関わる調査・研究に関すること。
- 五 F D 活動の実施等に関すること。
- 六 その他教育改善に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 博士前期課程の各専攻の教授または准教授各1名
- 二 その他研究科長が必要と認めた者

(任期)

第4条 任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学務副委員長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員会に副委員長を置き、委員長が指名する。

4 委員長に事故等があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外のものを委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、工学資源学研究科事務部において処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、平成22年6月10日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

5回開催（平成23年度実績）。構成委員全員が参加。

c 委員会の審議事項等

上記の委員会規程第2条に定めるところによる。

② 実施状況

a 実施内容

- (1) F D シンポジウムの開催
- (2) F D ワークショップの開催
- (3) 教員による授業評価

b 実施方法

- (1) F D シンポジウム：G P や教育プロジェクトの担当教員による基調講演と、両講師をパネリストとしたパネル討論。

- (2) FDワークショップ：①学生相談の現状を把握するため、保健管理センター所長からのレクチャー。
②専門家（教育ジャーナリスト、就職チューター）による学生カウンセリングの指導。
③講師3名による総合討論。
- (3) 各学科・専攻単位に授業評価の対象科目を選定し、その科目について2名以上の教員で評価を行う。
（各教員は、5年に1科目を目処に評価を受けることとしている。）

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- (1) FDシンポジウム：平成23年7月11日（月） 参加者：50名
(2) FDワークショップ：平成23年8月29日（月） 参加者：39名
(3) 平成23年5月から平成24年1月までの期間で、計23科目の評価を実施した。（平成23年度実績）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施結果を踏まえ、各学科・専攻ごとに検討を行い次年度以降の授業改善に向けて取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

有 前期と後期の2回、大学院及び学部的全学生を対象に実施した。（平成23年度実績）

b 教員や学生への公開状況、方法等

実施結果及び分析結果の総評は冊子体としてまとめ、各教員に配付している。各科目ごとの結果については当該教員に個別に通知している。学生への公開については、その方法等も含め各学科・専攻の判断に委ねている。

(秋田県立大学)

- ① 実施体制
- a 委員会の設置状況
秋田県立大学教務・学生委員会規程（別紙1）
秋田県立大学教務・学生委員会ファカルティ・デベロップメント専門部会設置要綱（別紙2）
- b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
教務・学生委員会：概ね四半期に一度開催
FD専門部会：年度当初に定例開催、必要に応じて随時開催
FD専門部会システム科学技術分会：年度当初に定例開催、必要に応じて随時開催
- c 委員会の審議事項等
（FD専門部会審議事項）
1. FDの啓蒙及び周知に関すること
 2. FD事業の基本計画及び実施計画の策定並びに総括に関すること
 3. FD事業の実施及び取りまとめに関すること
 4. その他FDに関すること
- ② 実施状況
- a 実施内容
- ・外部講師によるFD講演会
 - ・シラバスの充実に向けた企画立案
 - ・オフィスアワーの実施
 - ・学生を対象とした授業アンケートの実施
 - ・他教員の授業を参観する授業公開の実施
 - ・教職員研修会の実施
 - ・ティーチングポートフォリオの導入
 - ・その他、学外FDセミナーへの参加
- b 実施方法
FD専門部会（全学組織）でFD活動の基本方針を決定し、その基本方針の下、システム科学技術分会において学部・研究科内のFD事業実施計画を定め、実施している。
- c 開催状況（教員の参加状況含む）
平成24年度の事業計画は概ね前年度と同様の事業実施を予定している。
平成23年度の事業実績は以下のとおりである。
（平成23年度実績）
- ・FD講演会「今、国内外のFDで起こっていること」
開催日：平成23年12月26日 講師：北海道大学高等教育推進機構 細川敏幸氏 参加者数：56名
 - ・授業アンケート：既存専攻修了生 前期課程13名中7名、後期課程2名中2名から回収
 - ・授業参観：4件
 - ・教職員研修会
- ①「平成23年度新任教員研修会」
開催日：平成23年4月12日
内容：教務・学生指導・FDについて
参加者数：19名
- ②「学長および副学長との懇談会」
開催日：平成23年12月27日
内容：“本学のめざす方向性について” “これからのFD活動に求められるもの”
参加者数：75名
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
平成24年5月1日時点での実績なし
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
平成24年5月1日時点での実績なし
- b 教員や学生への公開状況、方法等

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付してください。
・ 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載してください。（記入例参照）
・ 構成大学毎に記入してください。
・ 国立大学間の共同設置のうち、「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

(秋田大学)

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 平成24年度に開設し、教育・研究活動を開始したところである。 自己点検・評価については設置計画書に記載のとおり、秋田大学評価センター評価委員会と連携しつつ、共同ライフサイクルデザイン工学専攻協議会の下で定期的に自己点検・評価を行うこととしている。 併せて第三者による評価も行う予定である。
② 自己点検・評価報告書 a 公表（予定）時期 ・平成26年度以降 b 公表方法 ・両大学がそれぞれ共同ライフサイクルデザイン工学専攻のHPを開設しており、主にこのHPを活用して共同専攻に係る各種の情報を発信している。報告書等についても主に当該HPを活用した公表を予定しているが、公表の方法等は共同専攻協議会で協議し、広く社会へ提供していく予定である。
③ 認証評価を受ける計画 ・平成25年度の実審（評価機関：大学評価・学位授与機構）に向けて、学内で準備中である。

(秋田県立大学)

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 平成24年度に開設し、教育・研究活動を開始したところである。 自己点検・評価については設置計画書に記載のとおり、「秋田県立大学自己評価委員会」と連携しつつ、共同ライフサイクルデザイン工学専攻協議会の下で定期的に自己点検・評価を行うこととしている。 併せて第三者による評価も行う予定である。
② 自己点検・評価報告書 a 公表（予定）時期 ・平成25年度以降 b 公表方法 ・両大学がそれぞれ共同ライフサイクルデザイン工学専攻のHPを開設しており、主にこのHPを活用して共同専攻に係る各種の情報を発信している。報告書等についても主に当該HPを活用した公表を予定しているが、公表の方法等は共同専攻協議会で協議し、広く社会へ提供していく予定である。
③ 認証評価を受ける計画 ・平成29年度の実審機関（財団法人大学基準協会）の評価をうけるべく、学内で準備中である。

(4) 情報公表に関する事項

(秋田大学)

○ 設置計画履行状況報告書
a ホームページに公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
b 公表予定時期 (H24年5月31日)

(秋田県立大学)

○ 設置計画履行状況報告書
a ホームページに公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
b 公表予定時期 (H24年5月31日)

秋田県立大学教務・学生委員会規程

平成18年 4月 1日

規程第142号

改正 平成20年 4月 1日

(設置)

第1条 秋田県立大学に教務・学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業科目の履修等に関する事。
- (2) 学生の入学、休学、転学、卒業等に関する事。
- (3) 学生の課外活動及び学生の団体に関する事。
- (4) 学生の保健管理に関する事。
- (5) 学生の奨学金に関する事。
- (6) 学生の就職に関する事。
- (7) その他教務、厚生及び補導並びに就職に関する事。

(組織)

第3条 委員会の委員は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教育本部長
- (2) 学部ごとの教員（但し、教授又は准教授に限る。以下同じ。）のうちから選出された者各1名
- (3) 研究科ごとに教員のうちから選出された者各1名
- (4) 総合科学教育研究センターの教員のうちから選出された者1名
- (5) 木材高度加工研究所の教員のうちから選出された者1名

2 前項第2号から第5号までに掲げる委員は、各学部長、各研究科長、総合科学教育研究センター長、木材高度加工研究所長の推薦に基づき教育本部長が指名する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合には、教育本部長は、前条の方法により補欠の委員を指名する。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教育本部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故のあるときは、あらかじめ委員長の指名を受けた者がその職務を代理する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数を持って決し、可否同数のときは、議長の決

するところによる。

(専門部会)

第7条 委員会に、専門の事項を審議させるため必要があるときは、専門部会を置くことができる。

2 専門部会の組織及び運営については、委員長が定める。

(関係者の意見聴取)

第8条 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させ、説明を求め、又はその意見を聴くことができる。

(議事要旨)

第9条 委員会の議事要旨は、事務局職員が作成し、教育本部長が保管する。

(会議の非公開)

第10条 委員会の会議は、公開しない。

(委任)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育本部長が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

秋田県立大学教務・学生委員会ファカルティ・
デベロップメント専門部会設置要綱

平成18年4月 1日
秋田県立大学教育本部長決定
改正 平成20年12月 1日

(設置)

第1条 大学として教育内容改善の組織的取組みを実施する等のため、秋田県立大学教務・学生委員会にファカルティ・デベロップメント専門部会（以下「部会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 部会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 ファカルティ・デベロップメント（以下「FD」という。）の啓蒙及び周知に関すること。
- 二 FD事業の基本計画及び実施計画の策定並びに総括に関すること。
- 三 FD事業の実施及び取りまとめに関すること。
- 四 その他FDに関すること。

(組織)

第3条 部会は、次に掲げる委員5名をもって組織し、うち2名は、第10条第3項各号に掲げる区分ごとに、教務・学生委員のうちから選出するものとする。

- 一 各学部の教授及び准教授（以下「専任教員」という。）のうちから選出された者 各1名
 - 二 各研究科の専任教員のうちから選出された者 各1名
 - 三 総合科学教育研究センター（以下「センター」という。）の専任教員のうちから選出された者 1名
- 2 前項第1号及び第2号に掲げる委員は学部又は研究科の教授会で、同項第3号に掲げる委員はセンターの協議会でそれぞれ選出する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(部会長)

第5条 部会に部会長を置き、部会長は委員のうちから互選により選出する。

(会議の招集及び議長)

第6条 部会は、部会長が招集し、議長となる。

(定足数)

第7条 部会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

(議決)

第8条 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

- 2 事項が特に緊急の処理を必要とするものであるときには、前条及び前項の規定にかかわらず、部会長が適当と認める方法により議決することができる。

(関係者の意見聴取)

第9条 部会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させ、説明を求め、又はその意見を聴くことができる。

(分会等)

第10条 第2条第3号に掲げる事項その他必要な事項を審議するため、部会にシステム科学技術分会及び生物資源科学分会を置く。

2 分会は、各9名以内の分会委員をもって組織する。

3 分会委員は、各学部長が、関係部局の長と合議の上、次の各号に掲げる学部等に属する専任教員のうちから指名する。

一 システム科学技術分会 システム科学技術学部、システム科学技術研究科及びセンター

二 生物資源科学分会 生物資源科学部、生物資源科学研究科、センター及び木材高度加工研究所

4 第4条の規定は、分会委員について準用する。

5 分会に分会長を置き、分会長はその分会に属する分会委員の互選により定める。

(準用)

第11条 第6条から第9条までの規定は、分会について準用する。この場合において、「部会」とあるのは「分会」と、「部会長」とあるのは「分会長」と、「委員」とあるのは「分会委員」とそれぞれ読み替えるものとする。

(議事要旨)

第12条 部会の議事要旨は、事務職員が作成し、議長の承認を受けた後、教育本部長が保管する。

(会議の非公開)

第13条 部会の会議は、公開しない。

(委任)

第14条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、教育本部長が定める。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年12月1日付け一部改正)

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。